

# 【安来市中長期財政見通し】

## 1. 推計の考え方

- ①平成26年度決算及び平成27年度普通交付税の決定額をベースに、現行（平成27年10月現在）の制度が存続するものとした。
- ②現行の市民サービスを原則維持していくものとした。
- ③消費税増税による影響額を見込んだ。（平成29年4月1日～）

### 【歳入】

- ④普通交付税において合併算定替の特例の段階的廃止に伴う影響額を見込んだ。
- ⑤普通交付税算定の見直しによる影響額は3割程度圧縮されるものと見込んだ。
- ⑥交付税総額における普通交付税と特別交付税の割合変更を見込んだ。  
（平成27年度までは94：6、平成28年度は95：5、平成29年度以降は96：4）
- ⑦市債（臨時財政対策債を含む。）発行については、平成28年度、平成29年度は、事業の集中により平均発行額は59億3千万円となった。
- ⑧過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎対策事業債の発行は、期限の延長を見込んだ。

### 【歳出】

- ⑨予算単年度主義の原則に基づき、確保が見込まれる歳入の範囲内における歳出予算の設定に努めた。
- ⑩人件費については、給料カット終了、再任用職員の所要額を見込んだ。
- ⑪平成32年度以降の投資的経費については、事業費14億円程度を上限とした。  
 事業費 14億円程度  
 地方債 6～7億円程度  
 一般財源 2億円程度
- ⑫特別会計への繰出金については、それぞれの経営計画等により算定した額を計上した。

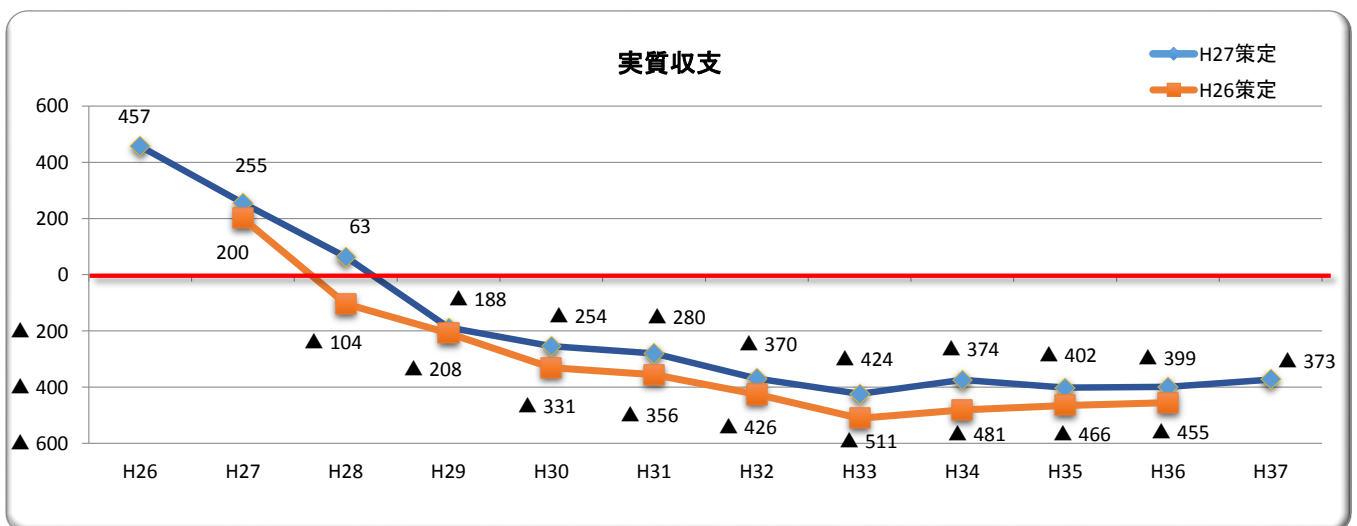
## 2. グラフの見方

- ①H26年度までは決算統計数値、H27年度～H32年度は中期財政計画、H33年度以降は長期財政見通しによる数値。

（単位：百万円）

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
実質収支27	457	255	63	▲ 188	▲ 254	▲ 280	▲ 370	▲ 424	▲ 374	▲ 402	▲ 399	▲ 373
実質収支26		200	▲ 104	▲ 208	▲ 331	▲ 356	▲ 426	▲ 511	▲ 481	▲ 466	▲ 455	

【実質収支の推移】 実質収支とは歳入総額から歳出総額及び翌年度に繰り越す財源を差し引いた額



\*平成28年度までは黒字で推移する。平成33年度には赤字のピークを迎えるが、その後徐々に好転する見込み。  
赤字部分については基金で補てんする。

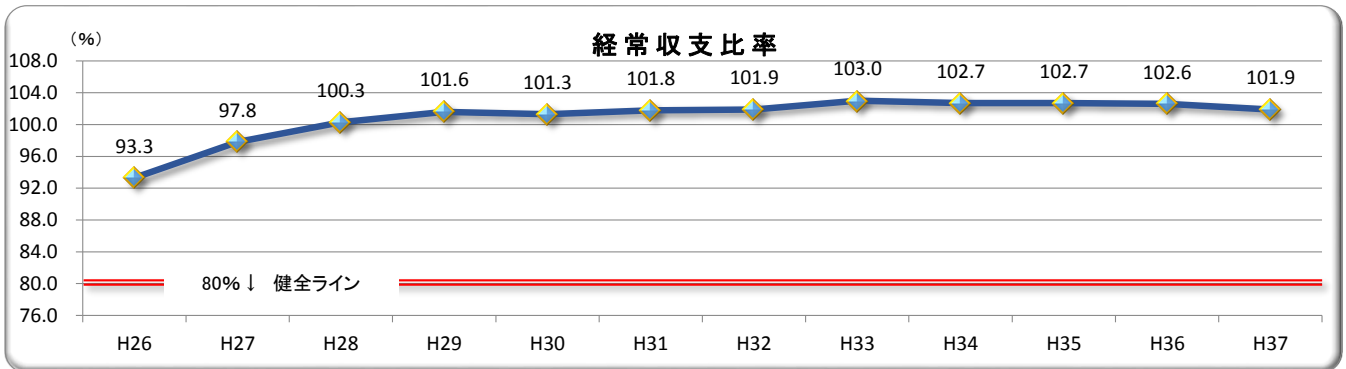
【経常収支比率の推移】

経常一般財源総額に占める経常経費充当一般財源の割合

(単位:%)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
経常収支比率	93.3	97.8	100.3	101.6	101.3	101.8	101.9	103.0	102.7	102.7	102.6	101.9

※H26までは決算数値、H27以降は見込値



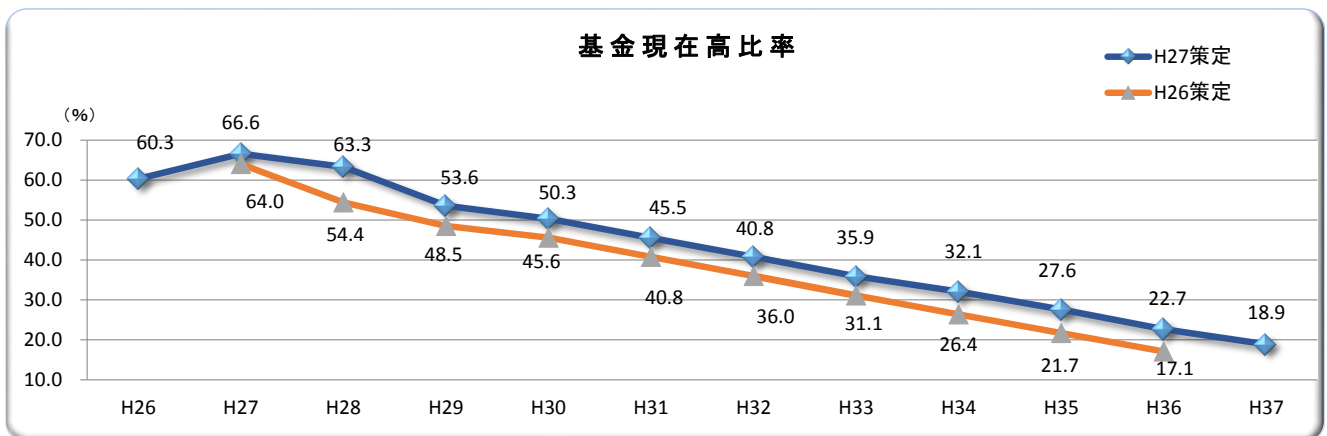
\* 税収入や交付税など経常的な一般財源の不足については、基金を充当する。実質収支の好転に比例して数値は改善する見通し。

【基金現在高比率の推移】

標準財政規模に占める基金現在高の割合

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
基金残高	8,710	9,676	9,036	7,707	7,213	6,530	5,959	5,223	4,647	3,977	3,260	2,702
標準財政規模	14,454	14,534	14,280	14,383	14,342	14,353	14,590	14,567	14,486	14,384	14,340	14,273



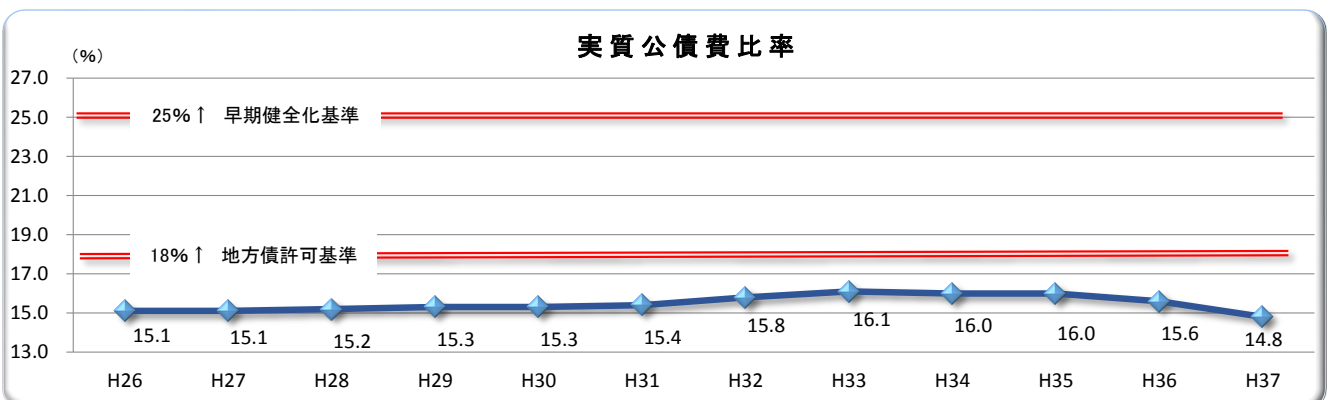
\* 基金現在高は、H37年度末で約27億保有する見込み。

【実質公債費比率の推移】 (3カ年平均)

標準財政規模に占める普通会計が負担する公債費等の割合

(単位:百万円、%)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
実質公債費比率	15.1	15.1	15.2	15.3	15.3	15.4	15.8	16.1	16.0	16.0	15.6	14.8
元金償還額	3,223	3,314	3,392	3,507	3,524	3,601	3,931	4,048	3,971	3,844	3,805	3,593
年度末地方債残高	31,514	34,250	39,222	39,216	37,896	36,232	34,080	31,719	29,417	27,238	25,258	23,705



\* 実質公債費比率は、推計期間中は18%以下で推移する見込み。